

## 基本計画書

基本計画								
事項	記入欄						備考	
計画の区分	学部設置							
フリガナ設置者	ガッコウホウシキ シュンテイガクエン 学校法人 順正学園							
フリガナ大学の名称	キョウシユホクフクシカウ 九州保健福祉大学 (Kyusyu University of Health and Welfare)							
大学本部の位置	宮崎県延岡市吉野町1714番1							
大学の目的	本学は、教育基本法及び学校基本法の本旨にのっとり、国際化社会に向けて、介護・福祉・医療・薬学に関する理論及び社会の問題を教育研究し、応用能力をもつ人格を陶冶することを目的とする。							
新設学部等の目的	生命に対する深い関心と確かな倫理観を培うことを基盤とした豊かな人間性を有し、臨床検査技師及び癌診断のスペシャリストである細胞検査士として、さらには疾患治療基盤の確立を思考する優れた医療人の養成を目的とする。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	生命医科学部 [School of Medical Life Sciences]	年	人	年次人	人	学士 (生命医科学)	平成27年4月 第1年次	宮崎県延岡市吉野町 1714番1
	生命医科学科 [Department of Medical Life Sciences]	4	60	—	240			
	計		60	—	240			
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	九州保健福祉大学 ・ 社会福祉学部臨床福祉学科〔定員減〕 (△80) (平成27年4月) (3年次編入学定員) (△1) (平成29年4月) ・ 保健科学部臨床工学科〔定員増〕 (10) (平成27年4月) ・ 薬学部動物生命薬科学科〔定員増〕 (10) (平成27年4月)  吉備国際大学短期大学部 (廃止) ・ 保健科総合美容専攻 (△60) ・ 専攻科 (通信制) メディカルビューティ専攻 (△40) ※平成27年4月学生募集停止							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数		
	生命医科学部 生命医科学科	講義	演習	実験・実習	計	124単位		
		65科目	10科目	17科目	92科目			

教 員	学 部 等 の 名 称	専任教員等					兼 任 員	教 員
		授 教	准 授 教	講 師	助 教	計		
新 設	生命医科学部 生命医科学科	9 (9)	4 (3)	0 (0)	1 (1)	14 (13)	0 (0)	5 (4)
	計	9 (9)	4 (3)	0 (0)	1 (1)	14 (13)	0 (0)	5 (4)
既 設	社会福祉学部 スポーツ健康福祉学科	6 (6)	3 (3)	3 (3)	1 (1)	13 (13)	0 (0)	35 (35)
	社会福祉学部 臨床福祉学科	5 (5)	3 (3)	4 (4)	2 (2)	14 (14)	0 (0)	27 (27)
	社会福祉学部 子ども保育福祉学科	4 (4)	1 (1)	4 (4)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	19 (19)
	保健科学部 作業療法学科	5 (5)	0 (0)	2 (2)	2 (2)	9 (9)	0 (0)	24 (24)
	保健科学部 言語聴覚療法学科	5 (5)	1 (1)	2 (2)	1 (1)	9 (9)	0 (0)	27 (27)
	保健科学部 視機能療法学科	4 (4)	2 (2)	1 (1)	4 (4)	11 (11)	0 (0)	17 (17)
	保健科学部 臨床工学科	4 (4)	0 (0)	4 (4)	0 (0)	8 (8)	1 (1)	24 (24)
	薬学部 薬学科	21 (21)	4 (4)	8 (8)	9 (9)	42 (42)	1 (1)	0 (0)
	薬学部 動物生命薬科学科	4 (4)	1 (1)	2 (2)	1 (1)	8 (8)	0 (0)	24 (24)
	通信教育部 社会福祉学部 臨床福祉学科	5 (5)	3 (3)	4 (4)	2 (2)	14 (14)	0 (0)	36 (36)
	クオリティ・オブ・ライフ研究機構 社会福祉学研究所	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
計	59 (59)	15 (15)	30 (30)	20 (20)	124 (124)	2 (2)	225 (225)	
要	合 計	68 (68)	19 (18)	30 (30)	21 (21)	138 (137)	2 (2)	230 (229)
教員以外の職員の概要	職 種	専 任		兼 任		計		
	事 務 職 員	人		人		人		
	技 術 職 員	0 (0)		0 (0)		0 (0)		
	図 書 館 専 門 職 員	1 (1)		4 (4)		5 (5)		
	そ の 他 の 職 員	0 (0)		2 (2)		2 (2)		
計	30 (30)		16 (16)		46 (46)			

専任14人が通学・通信を併せ持つ

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	その他 ①借用面積： 1,476.00㎡ 借用期間：30年 ②借用面積： 4,687.82㎡ 借用期間：5年更新				
	校 舎 敷 地	201,822.00 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	201,822.00 ㎡					
	運 動 場 用 地	21,174.00 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	21,174.00 ㎡					
	小 計	222,996.00 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	222,996.00 ㎡					
	そ の 他	8,464.71 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	8,464.71 ㎡					
	合 計	231,460.71 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	231,460.71 ㎡					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
		38,058.83 ㎡ ( 38,058.83 ㎡)	0 ㎡ ( 0 ㎡)	0 ㎡ ( 0 ㎡)	38,058.83 ㎡ ( 38,058.83 ㎡)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	34 室	43 室	88 室	1 室 (補助職員 1 人)	1 室 (補助職員 0 人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数						
		生命医科学部 生命医科学科		1 4 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体での 共用分を含む ・図書 3,548冊〔894冊〕 ・学術雑誌 136種〔30種〕 ・電子ジャーナル 4,048〔2,435〕 ・視聴覚資料 695点		
	生命医科学部 生命医科学科	1,500〔200〕 (1,500〔200〕)	10〔0〕 (10〔0〕)	5〔5〕 (5〔5〕)	11 (11)	3,301 (3,301)	18 (18)			
	計	1,500〔200〕 (1,500〔200〕)	10〔0〕 (10〔0〕)	5〔5〕 (5〔5〕)	11 (11)	3,301 (3,301)	18 (18)			
図 書 館		面積		閲覧席数	収 納 可 能 冊 数		大学全体			
		1,897.77 ㎡		268 席	111,111 冊					
体 育 館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要			大学全体			
		1,879.20 ㎡		柔道場 225.00 ㎡	剣道場 217.50 ㎡					
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	共同研究費は大学全体 図書費には電子ジャーナル・データベースの整備費 (運用コスト含む)を含む。	
	経費の見積り 教員1人当り研究費等	教授	/	420千円	420千円	420千円	420千円	/		/
		准教授		370千円	370千円	370千円	370千円			
		講師		330千円	330千円	330千円	330千円			
		助教		260千円	260千円	260千円	260千円			
	共同研究費等	/	10,000千円	10,000千円	10,000千円	10,000千円	/	/		
	図書購入費	15,000千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	/	/		
	設備購入費	660,000千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	/	/		
学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次				
	1,796千円	1,496千円	1,496千円	1,496千円	/	/				
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入等							

既設大学等の状況	大学の名称	吉備国際大学							所在地		
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度			
		年	人	年次人	人		倍				
	社会学研究科										
	社会学専攻 博士(後期)課程	3	4	—	12	博士 (社会学)	0.08	平成9年度			
	社会学専攻 修士課程	2	12	—	24	修士 (社会学)	0.41	平成7年度			
	文化財保存修復学研究科										
	文化財保存修復学専攻 修士課程	2	5	—	10	修士 (文化財保存修復学)	0.50	平成17年度			
	保健科学研究科										
	保健科学専攻 博士(後期)課程	3	3	—	9	博士 (保健学)	1.55	平成17年度			
	保健科学専攻 修士課程	2	6	—	12	修士 (保健学)	0.49	平成12年度			
	社会福祉学研究科										
	社会福祉学専攻 修士課程	2	7	—	14	修士 (社会福祉学)	0.49	平成11年度			
	心理学研究科										
	心理学専攻 博士(後期)課程	3	2	—	6	博士 (心理学)	0.50	平成18年度			平成22年度名称変更 臨床心理学研究科→ 心理学研究科 平成26年度名称変更 心理学研究科臨床心理学専攻 博士(後期)課程→ 心理学研究科心理学専攻博士 (後期)課程
	臨床心理学専攻 修士課程	2	15	—	30	修士 (臨床心理学)	0.46	平成16年度			
	心理学専攻 修士課程	2	5	—	10	修士 (心理学)	0.00	平成22年度			
	(通信制)社会学研究科										
	社会福祉学専攻 修士課程	2	10	—	20	修士 (社会福祉学)	0.60	平成14年度			
	(通信制) 連合国際協力研究科										
	国際協力専攻 修士課程	2	7	—	14	修士 (国際協力)	0.78	平成18年度			
	(通信制)心理学研究科										
	心理学専攻 博士(後期)課程	3	3	—	9	博士 (心理学)	0.44	平成18年度			平成22年度名称変更 (通信制)臨床心理学研究科→ (通信制)心理学研究科 平成26年度名称変更 (通信制)心理学研究科臨床 心理学専攻博士(後期)課程→ (通信制)心理学研究科心理 学専攻博士(後期)課程
	(通信制)保健科学研究科										
	理学療法学専攻 修士課程	2	15	—	30	修士 (理学療法学)	0.46	平成20年度			
	作業療法学専攻 修士課程	2	10	—	20	修士 (作業療法学)	1.05	平成22年度			
	(通信制)知的財産学研究科										
	知的財産学専攻 修士課程	2	30	—	60	修士 (知的財産学)	0.24	平成20年度			
	(通信制)環境リスクマネジ メント研究科										
	環境リスクマネジメント 専攻修士課程	2	10	—	20	修士 (環境リスクマネジメント)	0.10	平成20年度			
	社会科学部						0.75				
	経営社会学科	4	60	3年次 10	120	学士 (経営社会学)	0.59	平成25年度			平成25年度名称変更 社会学部→社会科学部 平成25年度より学生募集停止 国際社会学科 平成25年度 スポーツ社会学科入学定員 120名→100名(△20) 平成26年度より学生募集停止 ビジネスコミュニケーション学科
	国際社会学科	4	—	—	—	学士 (社会学)	—	平成2年度			
	ビジネスコミュニケーション学科	4	—	—	—	学士 (社会学)	—	平成2年度			
	スポーツ社会学科	4	100	3年次 10	460	学士 (社会学)	0.80	平成17年度			
	保健医療福祉学部						1.06				
	看護学科	4	60	3年次 10	220	学士 (看護学)	1.35	平成7年度			平成23年度名称変更 保健科学部→ 保健医療福祉学部 平成25年度 看護学科入学定員 40名→60名(20)
	理学療法学科	4	40	—	160	学士 (理学療法学)	1.44	平成7年度			
	作業療法学科	4	40	—	160	学士 (作業療法学)	1.23	平成7年度			
	社会福祉学科	4	50	3年次 20	240	学士 (社会福祉学)	0.37	平成23年度			

既設大学等の状況	大学の名称	吉備国際大学							所在地			
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度				
		年	人	年次人	人		倍					
	社会福祉学部 社会福祉学科	4	—	—	—	学士 (社会福祉学)	—	平成7年度	岡山県高梁市 伊賀町8番地	平成23年度より学生募集停止 社会福祉学科 子ども福祉学科		
	子ども福祉学科	4	—	—	—	学士 (社会福祉学)	—	平成18年度				
	心理学部 心理学科	4	50	—	220	学士 (心理学)	0.70 0.60	平成19年度		岡山県高梁市 伊賀町8番地	平成23年度名称変更 臨床心理学科→心理学科 平成25年度 心理学科入学定員 60名→50名 (△10)	
	子ども発達教育学科	4	40	—	160	学士 (子ども発達教育学)	0.83	平成23年度				
	文化財学部 文化財修復国際協力学科	4	—	—	—	学士 (文化財学)	—	平成19年度				平成26年度より学生募集停止 文化財修復国際協力学科 アニメーション文化学科
	アニメーション文化学科	4	—	—	—	学士 (文化財学)	—	平成22年度				
	国際環境経営学部 環境経営学科	4	—	—	—	学士 (環境経営学)	—	平成20年度		岡山県高梁市 伊賀町8番地	平成25年度より学生募集停止 環境経営学科	
	地域創成農学部 地域創成農学科	4	60	3年次 10	120	学士 (地域創成農学)	0.88 0.88	平成25年度				
	外国語学部 外国学科	4	80	—	80	学士 (外国語学)	0.42 0.42	平成26年度		兵庫県南あわじ市 志知佐礼尾370番1		
	アニメーション文化学部 アニメーション文化学科	4	40	—	40	学士 (アニメーション文 化学)	0.15 0.15	平成26年度		岡山県高梁市 伊賀町8番地		
	通信教育部心理学部 子ども発達教育学科	4	50	2年次30 3年次30	300	学士 (子ども発達教育学)	0.44 0.44	平成24年度				

既設大学等の状況	大学の名称	九州保健福祉大学							所在地
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	
		年	人	年次人	人		倍		
既設大学等の状況	医療薬学研究科 医療薬学専攻 博士課程	4	4	—	12	博士 (医療薬学)	0.66	平成24年度	宮崎県延岡市 吉野町1714番1
	(通信制)連合社会福祉学研究科 社会福祉学専攻 博士(後期)課程	3	5	—	15	博士 (社会福祉学)	0.86	平成16年度	
	(通信制)社会福祉学研究科 社会福祉学専攻 修士課程	2	20	—	40	修士 (社会福祉学)	0.27	平成14年度	
	(通信制)保健科学研究科 保健科学専攻 博士(後期)課程	3	3	—	9	博士 (保健科学)	0.66	平成16年度	
	(通信制)保健科学専攻 修士課程	2	7	—	14	修士 (保健科学)	1.92	平成14年度	
	社会福祉学部 スポーツ健康福祉学科	4	40	3年次 2	164	学士 (社会福祉学)	0.89	平成16年度	
	臨床福祉学科	4	145	3年次 6	592	学士 (社会福祉学)	0.35	平成11年度	
	子ども保育福祉学科	4	50	—	200	学士 (社会福祉学)	0.37	平成19年度	
	保健科学部 作業療法学科	4	40	—	160	学士 (保健科学)	1.11	平成11年度	
	言語聴覚療法学科	4	40	—	160	学士 (保健科学)	0.76	平成11年度	
	視機能療法学科	4	40	—	160	学士 (保健科学)	0.55	平成11年度	
	臨床工学科	4	40	—	160	学士 (保健科学)	1.01	平成19年度	
	薬学部 薬学科	6	140	2年次3 4年次3	901	学士 (薬学)	0.91	平成15年度	
	動物生命薬科学科	4	30	—	120	学士 (動物生命薬科学)	1.02	平成20年度	
	通信教育部社会福祉学部 臨床福祉学科	4	500	2年次30 3年次150 4年次10	2400	学士 (社会福祉学)	0.20	平成14年度	
		大学の名称	吉備国際大学短期大学部						
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
		年	人	年次人	人		倍		
	保健科 総合美容専攻	2	60	—	120	短期大学士 (保健科学)	0.20	平成23年度	岡山県高梁市 伊賀町8番地
附属施設の概要	名 称	九州保健福祉大学QOL研究機構社会福祉学研究所 九州保健福祉大学QOL研究機構保健科学研究所 九州保健福祉大学QOL研究機構薬学研究所 九州保健福祉大学QOL研究機構がん細胞研究所 ※平成27年4月開設予定							
	目的	学位分野の研究							
附属施設の概要	所在地	宮崎県延岡市吉野町1714番1(本学敷地内)							
	設置年月	平成17年2月							
	規模等	敷地面積1,476.95㎡ 建物面積1,092.08㎡(QOL研究機構棟全体)							
	名 称	薬草園							
附属施設の概要	目的	学位分野の教育研究							
	所在地	宮崎県延岡市吉野町1714番1(本学敷地内)							
	設置年月	平成15年4月							
	規模等	総面積3,531㎡							

# 教 育 課 程 等 の 概 要

(生命医科学部生命医科学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
基礎科目	共通語	英語Ⅰ	1前	2			○				1					
		英語Ⅱ	1後		2			○				1				
	情報教育	メディアリテラシー	1前		2			○								兼1
		情報処理入門	1後		2			○								兼1
		情報処理演習	2前		2				○							兼1
	総合教育	エンカレッジ教育	1後		2			○			1					
		キャリア教育	2前		2			○			1					
		コミュニケーション論	1前		2			○								兼1
		QOL概論	1前	1				○								兼1
		人間の尊厳	1前	1				○								兼1
		日向国地域論	1後		2			○								兼1
		国際保健福祉論	2前		2			○								兼1
		国際人道援助論	2後		2			○								兼1
		ボランティア活動	1通		2			○								兼1
	小計(14科目)		—	4	22	0	—			1	1	0	0	0	兼7	—
	学科基礎科目	英会話	1前		2				○			1				
		実践英語Ⅰ	2前		2			○				1				
		実践英語Ⅱ	2後		2			○				1				
		実践英語Ⅲ	3前		2			○				1				
		実践英語Ⅳ	3後		2			○				1				
物理学		1前		2			○					1				
化学		1前		2			○			1						
生物学		1前		2			○				1					
分子生物学		1後	2				○			1						
基礎免疫学		1前	2				○			1						
法学		1前		2			○			1						
哲学		1後		2			○			1						
生命倫理学		1後	2				○			1						
心理学		1前		2			○								兼1	
統計学		1後		2			○			1						
情報科学概論	2前	2				○			1							
小計(16科目)		—	8	24	0	—			4	2	0	1	0	兼1	—	
専門教育科目	生命医科学概論Ⅰ	1前		2			○			1						
	生命医科学概論Ⅱ	1後		2			○			1						
	医学概論	1前		2			○			1						
	公衆衛生学	3前		2			○			1						
	解剖学Ⅰ	1後		2			○				1					
	解剖学Ⅱ	2後		2			○				1					
	解剖学実習	2後		1							1					
	生理学Ⅰ	1前		2			○			1						
	生理学Ⅱ	1後		2			○			1						
	生理学実習	2前		1						1						
	病理学Ⅰ	2前		2			○				1					
	病理学Ⅱ	2後		2			○				1					
	病理学実習	3前		1							1					
	生化学Ⅰ	1前		2			○			1						
	生化学Ⅱ	1後		2			○			1						
	生化学実習	2前		1						1						
	微生物学Ⅰ	1後		2			○				1					
	微生物学Ⅱ	2前		2			○			1						

別記様式第2号(その2の1)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目	微生物学実習	2後	1					○		1						
	医動物学	3後	2			○						1				
	医動物学実習	3後	1					○				1				
	検査機器総論Ⅰ	1前	2			○				1						
	検査機器総論Ⅱ	1後	2			○				1						
	検査基礎実習	1後		1				○		1						
	医用工学概論	1前	2			○			1							
	医用工学実習	1後	1					○	1							
	臨床血液学Ⅰ	2前	2			○									兼1	
	臨床血液学Ⅱ	2後	2			○									兼1	
	臨床血液学実習	3後	2					○							兼1	
	臨床免疫学Ⅰ	2前	2			○			1							
	臨床免疫学Ⅱ	2後	2			○			1							
	臨床免疫学Ⅲ	3前	2			○			1							
	臨床免疫学実習Ⅰ	3前	1					○	1							
	臨床免疫学実習Ⅱ	3後	2					○	1							
	臨床検査総論	2前	2			○			1							
	臨床検査総論実習	2後	2					○	1							
	臨床生理学Ⅰ	2前	2			○			1							
	臨床生理学Ⅱ	2後	2			○			1							
	臨床生理学Ⅲ	3前	2			○			1							
	臨床生理学実習	3後	2					○	2						共同	
	臨床化学Ⅰ	2前	2			○			1							
	臨床化学Ⅱ	2後	2			○			1							
	臨床化学実習Ⅰ	3前	1					○		1						
	臨床化学実習Ⅱ	3前	2					○				1				
	RⅠ検査学	2後	2			○			1							
	RⅠ検査学実習	2後	1					○	1							
	検査管理総論(関係法規含む)	3後	2			○				1						
	遺伝子検査学	2前		2		○			1							
	臨床医学総論	3前		2		○			1							
	臨床検査医学総論	3後		2		○			1							
	臨床実習	3後		5				○	1							
	臨床検査学演習Ⅰ	4前		2			○		1							
	臨床検査学演習Ⅱ	4後		2			○		1							
	臨床細胞学総論Ⅰ	1後		2		○			1							
臨床細胞学総論Ⅱ	2前		2		○			1								
臨床細胞学総論Ⅲ	2後		2		○			1								
臨床細胞学演習Ⅰ	3前		1			○					1					
臨床細胞学演習Ⅱ	3後		1			○			1							
細胞診断学特論Ⅰ	4前		4			○		1								
細胞診断学特論Ⅱ	4後		4			○			1		1				オムニバス	
生命医科学卒業研究Ⅰ	4通		8			○		7	2							
生命医科学卒業研究Ⅱ	4通		8			○		1	1		1					
小計(62科目)		—	85	45	0			8	3	0	1	0	兼2	—		
合計(92科目)		—	97	91	0			9	4	0	1	0	兼10	—		
学位又は称号	学士(生命医科学)	学位又は学科の分野			保健衛生学関係 (看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。)											
修了要件及び履修方法						授業期間等										
大学共通基礎科目10単位以上、学科基礎科目14単位以上、専門教育科目100単位以上、合計124単位以上修得すること。 ※専門教育科目の内、「生命医科学卒業研究Ⅰ」または「生命医科学卒業研究Ⅱ」を選択必修科目とする。						1学年の学期区分			2 学期							
						1学期の授業期間			15 週							
						1時限の授業時間			90 分							



## 九州保健福祉大学生命医科学部生命医科学科の設置の趣旨等を記載した書類

### ア 設置の趣旨及び必要性

#### (1) 設置の必要性

平成 11 年 4 月、宮崎県延岡市に、国民一人ひとりの健康の保持・増進、有疾病者の身体・精神の健康回復を図ることに寄与できる人材の養成を目的に、九州保健福祉大学は社会福祉学部（東洋介護福祉学科、社会福祉計画学科、臨床福祉学科）、保健科学部（作業療法学科、言語聴覚療法学科、視機能療法学科）の 2 学部 6 学科編成で開設された。

現在、社会福祉学部はスポーツ健康福祉学科、臨床福祉学科、子ども保育福祉学科の 3 学科に改編し、保健科学部は開設当初の 3 学科（作業療法学科、言語聴覚療法学科、視機能療法学科）に臨床工学科を加え 4 学科体制となっている。また、第 3 の学部として平成 15 年 4 月に設置した薬学部には 6 年制課程の薬学科と 4 年制課程の動物生命薬科学科を配置している。

大学院教育においては（通信制）社会福祉学研究科修士課程、（通信制）連合社会福祉学研究科博士（後期）課程、（通信制）保健科学研究科修士課程・博士（後期）課程を設け、保健・医療・福祉の分野における専門研究者の養成や、高度な専門的知識や技術を求める社会人の教育に取り組んできた。また、平成 24 年 4 月には薬学部薬学科を基礎として医療薬学研究科博士課程（4 年制）を開設した。

この他にも、通信教育による学士課程としての通信教育部社会福祉学部臨床福祉学科や、主に社会人の資格取得を目的とした視機能療法学別科、臨床工学別科を設け、総合大学としてこれからの保健・医療・福祉を支える人材養成を行っている。

この度、九州保健福祉大学では、新たな学部として、平成 27 年度から生命医科学部（生命医科学科の 1 学部 1 学科）を開設する。本学では、「学生一人ひとりのもつ能力を最大限に引き出し引き伸ばし、社会に有為な人材を養成する。」という建学の理念のもと、「本学は、教育基本法及び学校教育法の本旨にのっとり、国際化社会に向けて、介護・福祉・医療・薬学に関する理論及び社会の問題を教育研究し、応用能力を持つ人格を陶冶することを目的とする。」という大学の目的を定めて、教育・研究に取り組んでいる。生命医科学部においても、この建学の理念及び大学の目的を基盤に、臨床検査技師あるいは細胞検査士として地域医療への貢献はもとより高度医療の担い手として活躍できる人材を養成するものである。

臨床検査技師と細胞検査士の現代医療における必要性はあらためて述べるまでもないが、厚生労働省の「がん対策推進基本計画」（平成 24 年 6 月）においても、病理診断に関して取り組むべき施策として、「若手病理診断医の育成をはじめ、細胞検査士等の病理関連業務

を専門とする臨床検査技師の適正配置などを行い、さらに病理診断を補助する新たな支援のあり方や病理診断システムや情報技術の導入、中央病理診断などの連携体制の構築などについて検討し、より安全で質の高い病理診断や細胞診断の均てん化に取り組む」とされている。また、この「がん対策推進基本計画」を受けて、宮崎県においても「宮崎県がん対策推進計画（改定）」を策定し、同じく病理診断に関して取り組むべき施策として、「病理診断医の育成をはじめ、細胞検査士等の病理関連業務を専門とする臨床検査技師の適正配置など、病理診断を確実に実施できる体制を整備するよう努める」としている。

一方、全国の細胞検査士の実働数約 5,500 人に対して、宮崎県における細胞検査士数は 41 人（平成 15 年時点）であり、全国的に見ても少ない状況となっている（資料 1）。

宮崎県にとって、病理診断・細胞診断に関わる専門職の人材養成は急務であると言えることができる。しかし、現在、宮崎県には臨床検査技師を養成する学校や施設が設置されていないというのが現状である。また、細胞検査士の養成に関しては、九州・沖縄地方全体において本学部が初めての養成機関となる（資料 2）。

折しも宮崎県では宮崎・大分両県における地域活性化総合特区「東九州メディカルバレー構想」が展開され、主たる取り組みとして、「研究開発の拠点づくり」、「医療技術人材育成の拠点づくり」、「血液・血管に関する医療拠点づくり」、「医療機器産業の拠点づくり」の 4 つの拠点づくりが進められている。本学においても、保健科学部臨床工学科を中心とした教育・研究を通じてこの東九州メディカルバレー構想における大きな役割を担っている。この度の生命医科学部の設置により本構想に対する新たな展開が期待されており、とりわけ「医療技術人材育成の拠点づくり」及び「研究開発の拠点づくり」において、より一層の貢献が可能であると考えている（資料 3）。

## (2) 教育研究上の目的と養成する人材像

近年、医療技術は凄まじい勢いで進歩を遂げ、加えて医療行政や社会環境も大きく変化している。そのような環境の中にあって、臨床検査技師や細胞検査士を含めた医療従事者に求められる資質、能力もまた変化している。当然、生命医科学部が養成する人材も、社会の変化に対応し時代の要請に沿ったものでなければならない。

一般社団法人日本臨床衛生検査技師会は、業務の向上と安定を目指し、臨床検査技師に求められる「理想の仕事像」の目標に向けたビジョンや戦略、行動計画を取り纏め、平成 26 年 3 月 9 日に「第 4 次マスタープラン」を策定した。その中には以下のように示されている。

「臨床検査技師の使命は、「医学検査」の専門家として、国民の医療、健康維持に貢献することである。使命を達成するために必要なことは、臨床検査を利用される全ての方々に安全で正確なデータを供給すること、検査を受ける方の利便性を考慮した業務評価を行い、

信頼性の高い業務の充実を図ることである。

( 中 略 )

さらに、医療行政等の変革によって医療職種の高い専門性を前提に業務承認が見直され、チーム医療や在宅医療の中で個々の職種が果たす役割も見直されている。そのような社会情勢のもと、臨床検査技師の高い専門性を活かす時がきている。これからは、学術・研究等の知識修得だけでなく、検査説明・相談、検体採取、検査所見などの検査のすべての課程に責任をもつ総合的な検査力を身につけることが必要となっている。」

また、第4次マスタープランの策定の基となった、平成25年3月28日「臨床検査技師の未来構想（答申書）」には以下の基本理念が掲げられている。

1. 技術者から医療人へ

臨床検査データを出すだけでなく、チーム医療を推進する一員として被検者の QOL を考え、そして医師の診断・治療をサポートできる医療人へ

2. 卒前卒後一貫教育を担う多様な人材育成

臨床検査技師養成から生涯にわたって臨床検査技師の技術・知識の向上をサポートできる多様な人材の育成

3. 社会に貢献できる人材の育成

医療及び公衆衛生の向上に寄与するだけでなく、臨床検査を通じて広く社会に貢献する人材の育成

本学部において臨床検査技師及び細胞検査士を養成する上でも、このような臨床検査技師の将来像、理想像や臨床検査技師に求められている資質や能力を踏まえる必要がある。

近年の医療環境は、医療技術の高度化、患者の病気・病態の多様化、さらには患者の意識の変化といった要素が加わり、医師だけで医療を全うすることが難しくなっている。そのため、医師とともに多種多様な医療技術者が連携・協力して医療に取り組む「チーム医療」の必要性が認められるようになった。臨床検査技師も例外ではなく、チーム医療に積極的に参画することにより、様々な医療サービスを展開し、医療の質向上を図ることができる。臨床検査技師の活躍の場は、例えば医療機関における完成制御チーム（ICT）、栄養サポートチーム（NST）、糖尿病チーム・糖尿病教室など広範囲にわたることから、様々な場面でチーム医療に関与することができる職種であり、チーム医療の実践における期待も大きい。

特に、医療技術の進歩による検査項目の拡大や遺伝子検査などの専門性の高い項目の増加に伴い、これらに関する検査説明については臨床検査技師が担うのが相応しいとされつつある。すなわち、臨床検査技師が詳細かつ正確な検査説明・相談を行い、他職種との連携を深め、検査へのインフォームドコンセントを充実させることが期待されている。

また、細胞検査士は、細胞検査の標本作製と異常細胞の検出等を日常業務とする専門性に特化した臨床検査技師であり、検査における正確さと高い能力が要求される専門職である。また、細胞検査士も臨床検査技師と同様にチーム医療の一環としての役割を担うという強い目的意識を持った人材が求められている。

九州保健福祉大学では、「学生一人ひとりのもつ能力を最大限に引き出し引き伸ばし、社会に有為な人材を養成する。」を建学の理念として掲げ、学則第1条に「本学は、教育基本法及び学校教育法の本旨にのっとり、国際化社会に向けて、介護・福祉・医療・薬学に関する理論及び社会の問題を教育研究し、応用能力を持つ人格を陶冶することを目的とする。」という大学の目的を定めて、教育・研究に取り組んでいる。

この建学の理念及び大学の目的を基盤として、生命医科学部における教育研究上の目的を次のとおりとする。

「生命に対する深い関心と確かな倫理観を培うことを基盤とした豊かな人間性を有し、臨床検査技師及び癌診断のスペシャリストである細胞検査士として、さらには疾患治療基盤の確立を思考する優れた医療人の養成を目的とする。」

この目的を達成することにより本学部が養成するのは、すなわち、次のような資質・能力を備えた人材像である。

- ① 生命に対する深い関心と豊かな人間性を育み、患者中心の医療を実践する中で、患者に深い思いやりを持って対応することができ、また的確な倫理的判断ができる能力を身につけた人材
- ② 日々進歩を遂げる現代医療に対応するため、分子生物学など最新の医科学を学び、生涯にわたり自己研鑽できる知的探求心を持った人材
- ③ 医療人としてチーム医療に加わるために、他者を尊重する広い視野を持ち、的確な人間関係を築けるコミュニケーション力を備えた人材

### (3) 研究対象とする学問分野

生命医科学部における研究は、充実した研究設備を備えた「がん細胞研究所」を併設し、学部と研究所の連携によって取り組む計画である。主たる研究内容は分子生物学に根差す新時代の細胞病理学の追究である。急速に進展する医科学の研究も教育と医療の現場に活かされてこそ存在価値を持つ。細胞検査士の行う業務も旧来の形態学に根差す解析のみに留まらず、今後は分子生物学的知見・技術を導入することが必須となると予測されており、その結果として、より早期の癌検出と治療の実現が期待されている。

例えば、がんの発症機構については、近年「がん幹細胞」というがんを生み出す細胞の存在が注目されている。本学のがん細胞研究所では、がんの早期発見と治療に迅速に応用されることを期待して、このがん幹細胞を対象とする研究を行うなど、新しい時代のがん診断と治療に向けた基礎的研究を行う予定である。併せて、人工多能性幹細胞(iPS細胞)の安全性を高める研究も計画している。その理由は、iPS細胞の安全性確保にはiPS細胞のがん化が深く関与しているからである。

これらの研究を推進し、本学は新しい時代のがん診断と治療に向けた九州・沖縄地域における研究開発の拠点となることを目指している。

さらに、これらの研究の成果を教育へと還元することによって、分子細胞病理学、再生医療、神経科学の知識を持ち、社会の要求に先行する細胞検査士の養成に役立てていく計画である。

## イ 学部、学科等の特色

九州保健福祉大学は、建学の理念、すなわち、「学生一人ひとりのもつ能力を最大限に引き出し引き伸ばし、社会に有為な人材を養成する。」のもと、学則第1条に「国際化社会に向けて、介護・福祉・医療・薬学に関する理論及び社会の問題を教育研究し、応用能力を持つ人格を陶冶することを目的とする。」という大学の目的を定め、教育・研究に取り組んでいる。

また、わが国における18歳人口は約120万人規模で推移し、数年後には再び減少期をむかえるという非常に厳しい時代の中で、本学においても、より一層の個性・特色の明確化を図り、オンリーワンの大学づくりを目指している。中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」に示された大学の機能の中で、本学が担うべき特徴的機能として、②高度専門職人材養成、③幅広い職業人養成、⑦社会貢献機能(地域貢献、産学官連携)を挙げることができる。

生命医科学部は、以下に掲げる3つの大きな特色を有しており、特に上記②及び⑦の役割を担うことができると考えている。

### 1. 生命に対する深い関心と確かな倫理観を培う教育

生命医科学部において最も重要視する教育は、医の倫理の理解である。医療という他者の命を預かる職に携わる者は、生命の尊厳、医療倫理を深く理解し、責任を持って人々の健康維持に寄与しなければならない。現代医学の進歩や医療技術の発達に伴って、出生前診断、遺伝子診断等の倫理問題や、終末期医療における尊厳死の問題など、伝統的な医の倫理では解決できない新しい倫理的問題も生じてきている。

本学部では、最高レベルの臨床検査の実践能力はもとより、単なる技術者としてではなく、確かな生命観・倫理観を持ち、被検者の QOL を考え得る医療人を養成する。

## 2. 臨床検査技師及び細胞検査士の両資格取得を目指す教育

生命医科学部は、臨床検査技師と細胞検査士のダブルライセンスの取得を目指す学部である。細胞検査士になるためには臨床検査技師の国家試験とともに日本臨床細胞学会の認定試験に合格する必要がある。細胞検査士は、人体から採取した細胞を顕微鏡下で形態学的に判定する特殊な知識と技術を要する職種である。本来、細胞検査士資格認定試験を受験するためには、臨床検査技師資格を取得後、細胞診検査の実務に 1 年以上従事するか、あるいは細胞検査士養成所あるいは大学の養成コースで専門教育を受ける必要がある。これに対して、生命医科学部では 4 年間の在学中に両資格の取得を目指すカリキュラムが組まれている。このような教育課程を有するのは全国に 7 大学のみであり、本学部が開設すれば 8 大学目となり九州・沖縄地域では初の設置となる（資料 2）。

こうした 4 年制大学での細胞検査士養成は、実務経験のみに頼らず、体系的な教育・研究体制のもとで行われることで、細胞検査士の質の向上に繋がっている。本学においても、細胞検査士教育は 1 年次から 4 年次にかけて臨床検査技師教育と並行して行う計画であり、将来細胞検査士の資格取得を目指さない学生にとっても、解剖学、病理学、組織学等の基礎医学を基盤とした細胞診断学の知識修得が可能であるというメリットがある。

## 3. 医療人として疾患治療基盤の確立まで思考できる人材を養成する教育

生命医科学部の教育と研究は、充実した研究機器を備えた施設である「がん細胞研究所」との連携により実現される。がん細胞研究所では、がん細胞の研究はもちろんのこと、再生医療に対しても形態学や分子細胞病理学を導入して iPS 細胞のがん化解析に取り組むなど最先端の医療に関する研究を行う。そして研究成果を教育に還元することにより最先端の知識を身につけた、社会の要求に先行する人材の輩出を目指す。

また、こうした最先端の医療研究に触れる中で、最新の医科学に対する探求心を養い、疾患治療基盤の確立まで思考できる創造力の豊かな医療人、臨床現場においても、生涯にわたって知識と技術の向上を目指せる向上心に富む医療人の養成を行っていく。

## ウ 学部、学科等の名称及び学位の名称

### 学部の名称

生命医科学部 (英訳名称 School of Medical Life Sciences )

### 学科等の名称

生命医科学科 (英訳名称 Department of Medical Life Sciences )

### 学位の名称

学士 (生命医科学) (英訳名称 Bachelor (Medical Life Sciences) )

## エ 教育課程の編成の考え方及び特色

生命医科学部の教育上の目的は「生命に対する深い関心と確かな倫理観を培うことを基盤とした豊かな人間性を有し、臨床検査技師及び癌診断のスペシャリストである細胞検査士として、さらには疾患治療基盤の確立を思考する優れた医療人の養成を目的とする。」である。また、卒業後の進路については、臨床検査技師及び細胞検査士として大学病院などの先端医療を実施している医療機関をはじめ、一般総合病院、検査・検診センターなどへの就職や、医学系大学院でさらに専門的知識を修得し、研究者として活躍することを想定している。

こうした目標を実現するために、生命医科学部では、大学共通基礎科目 (英語共通・情報教育・総合教育) から 10 単位以上、学科基礎科目から 14 単位以上、専門教育科目から 100 単位以上を修得し、合計 124 単位以上の単位修得をもって卒業要件を満たすと定め、臨床検査技師及び細胞検査士として必要な知識と技術を総合的に教授する。

### (1) 基礎科目

中央教育審議会「新しい時代における教養教育の在り方について (答申)」(平成 14 年 2 月 21 日)には大学における教養教育について次のように書かれている。

#### 「3 大学における教養教育 (1) 大学における教養教育の課題

社会が複雑かつ急激な変化を遂げる中で、各大学には、幅広い視野から物事を捉え、高い倫理性に裏打ちされた的確な判断を下すことができる人材の育成が一層強く期待されている。

( 中略 )

新たに構築される教養教育は、学生に、グローバル化や科学技術の進展など社会の激しい変化に対応し得る統合された知の基盤を与えるものでなければならない。各大学は、理系・文系、人文科学、社会科学、自然科学といった従来の縦割りの学問分野による知識伝達型の教

育や、専門教育への単なる入門教育ではなく、専門分野の枠を超えて共通に求められる知識や思考法などの知的な技法の獲得や、人間としての在り方や生き方に関する深い洞察、現実を正しく理解する力の涵養など、新しい時代に求められる教養教育の制度設計に全力で取り組む必要がある。」

本学では、このような中央教育審議会答申などを踏まえた上で、「学生一人ひとりのもつ能力を最大限に引き出し引き伸ばし、社会に有為な人材を養成する。」という学校法人順正学園の建学の理念と、「本学は、教育基本法及び学校教育法の本旨にのっとり、国際化社会に向けて、介護・福祉・医療・薬学に関する理論及び社会の問題を教育研究し、応用能力を持つ人格を陶冶することを目的とする。」という九州保健福祉大学の目的を達成するために必要となる教養教育を基礎科目で行っている。本学部における基礎科目は、大学共通基礎科目と学科基礎科目で構成する。

大学共通基礎科目は、学部の枠を超えたいわば九州保健福祉大学生としての土台を形成するための全学に共通して設定される教育科目群である。具体的なカリキュラム編成については、基礎的な教養を身につけさせるための科目として英語共通、情報教育、総合教育からなる教養科目群を開設している。

英語共通は、言語教育科目としての「英語Ⅰ」、「英語Ⅱ」、情報教育は、現代社会に必要な教養としての情報処理能力を養うための科目として「メディアリテラシー」、「情報処理入門」、「情報処理演習」を配置している。総合教育は、「エンカレッジ教育」、「キャリア教育」、「コミュニケーション論」、「QOL概論」、「人間の尊厳」、「日向国地域論」、「国際保健福祉論」、「国際人道援助論」、「ボランティア活動」で構成している。「エンカレッジ教育」、「キャリア教育」は将来、社会に貢献できる人材として成長するために能動的学習や就業意識の形成に必要な科目であり、「日向国地域論」、「国際保健福祉論」、「国際人道援助論」、「ボランティア活動」では、保健・医療・福祉の問題をローカルな観点、またグローバルな観点から思考できる能力を身につける。「QOL概論」、「人間の尊厳」は、生命の尊厳と人間としての在り方の理解に関する科目であり、医療分野で活躍するために必要な倫理観を養う科目として必修科目としている。「コミュニケーション論」もまた医療の担い手として、患者や他の医療従事者と信頼関係を確立するために必要なスキルを身につける重要な科目である。

学科基礎科目は、幅広い教養を身につけると同時に、専門教育へと導く科目群として位置づけられる。医療従事者として必要な科学的・論理的思考力を養うための基礎となる科目として「物理学」、「化学」、「生物学」、「法学」、「哲学」、「心理学」及び「統計学」を開講する。また、医療分野の国際化に対応できる能力を養うために、大学共通基礎科目の英語科目に加え、「英会話」、「実践英語Ⅰ」、「実践英語Ⅱ」、「実践英語Ⅲ」、「実践英語Ⅳ」を



配置している。さらに、医療に関する情報科学の理論と実際を学ぶための「情報科学概論」、生命の尊厳を幅広く理解するための「生命倫理学」、及び生命現象を総合的に理解するための基礎となる「分子生物学」、「基礎免疫学」は専門教育へと繋がる重要な位置づけにあるため、それぞれ必修科目として配置している。

## (2) 専門教育科目

専門教育科目は、大別すると生命医科学教育に関する科目、臨床検査技師教育に関する科目、細胞検査士教育に関する科目から構成されている。

生命医科学教育に関する科目は、本学部の教育上の目的「生命に対する深い関心と確かな倫理観を培うことを基盤とした豊かな人間性を有し、臨床検査技師及び癌診断のスペシャリストである細胞検査士として、さらには疾患治療基盤の確立を思考する優れた医療人を養成する。」を達成するために最も重要となる、生命の尊厳、医の倫理の理解に必要な科目である。基礎科目の「人間の尊厳」、「QOL 概論」、「生命倫理学」に加え、1年次に「生命医科学概論Ⅰ」、「生命医科学概論Ⅱ」、4年次に学部教育の総括として「生命医科学卒業研究Ⅰ」、「生命医科学卒業研究Ⅱ」をそれぞれ必修科目として設け、4年間を通して「生命に対する深い関心と確かな倫理観」を培い優れた医療人を養成する。

臨床検査技師教育に関する科目は、学部の教育目的を踏まえた上で、主に臨床検査技師に求められる知識と技術を確実に修得するために設定された科目である。「臨床検査技師等に関する法律施行令第18条第3号及び同号ニに定める厚生労働大臣の指定する科目」の基準を満たし、さらに本学が教育上必要な科目を加えて構成している。

人体の構造や機能など基礎医学の知識を学ぶための基礎医学系科目として「解剖学」、「生理学」、「生化学」、「病理学」、「微生物学」等の科目を設定し、疾患の原因と病態の解明や治療効果と臨床検査との関連などについて学ぶ臨床医学系科目として「臨床血液学」、「臨床免疫学」、「臨床医学総論」、「臨床生理学」、「臨床化学」、「放射性同位元素検査技術学」、等の科目を設定している。また、医療従事者として必要な医療をめぐる環境や臨床倫理などの知識を修得する保健系科目として「医学概論」、「公衆衛生学」「医動物学」等の科目を、臨床検査で使用する医用機器の基礎知識や、医療現場で適切に情報処理を行うための医用工学・情報科学系科目として「医用工学概論」、「検査機器総論」の科目群を設定している。さらに、検査に関する幅広い知識と技術の統合を図り、検査の実施から検査結果の評価・報告にいたるまでの一連のプロセスを総合的に判断できる能力を身につけるため「臨床検査医学総論」「臨床検査総論」及び「臨床実習」等の科目を配置している。

細胞検査士教育に関する科目は、1年次の「臨床細胞学総論Ⅰ」に始まり「臨床細胞学総論Ⅱ」、「臨床細胞学総論Ⅲ」、「臨床細胞学演習Ⅰ」、「臨床細胞学演習Ⅱ」、4年次の「細胞診断学特論Ⅰ」、「細胞診断学特論Ⅱ」を配置している。4年間の学習の中で解剖学、病理学

等と並行して細胞診断学を学び、系統的な学問修得を可能とする仕組みとなっている。細胞検査士認定試験を受験するかどうかは学生が自らの適正と希望により決定するところではあるが、1年次から3年次に配当しているこれらの科目は、細胞検査士を目指さない学生にとっても、臨床検査技師に求められる細胞診断学の知識を修得し、細胞検査と病理組織検査の相互関係及び必要性に対する理解を深める上で、非常に役立つ科目となっている。また、細胞検査士を目指す学生は、1年次から3年次の科目に加え、4年次の「細胞診断学特論Ⅰ」、「細胞診断学特論Ⅱ」などにより、細胞診断学をより深く理解し体系的に捉えられるよう十分な細胞検査士教育を行う。

#### オ 教員組織の編成の考え方及び特色

生命医科学部生命医科学科の教員組織は、入学定員60名に対して、教授9名、准教授4名、助教1名の合計14名の専任教員を配置しており、その年齢構成は、開設時において、70歳代1名、60歳代4名、50歳代5名（完成時6名）、40歳代1名、30歳代1名、20歳代1名となっており、特定の年齢に偏ることのない教員配置となっており、教育研究水準の維持向上及び活性化にも支障がないと考えている。

本学部の教育上の目的「生命に対する深い関心と確かな倫理観を培うことを基盤とした豊かな人間性を有し、臨床検査技師及び癌診断のスペシャリストである細胞検査士として、さらには疾患治療基盤の確立を思考する優れた医療人の養成を目的とする。」を達成するため、臨床検査及び細胞検査に関わる専門的な授業科目の殆どを専任教員が担当する。専任教員はそれぞれ専門分野における教育研究上、あるいは実務上の優れた知識や能力、実績を有する者を充てている。また、各々の臨床経験、教育実績、研究業績をもとに科目内容との適合を検討した上で、効果的で充実した教育指導ができるよう配置している。

また、定年に関する規程との関係については、本学の定年年齢は就業規則により65歳（教授・准教授・講師）と定められているが、同じく就業規則により新たに学校・学部又は学科を設置する場合は、その完成まで定年を延長できるものと定めており、定年後の再任用についても規定している。これを踏まえた上で、年齢の高い教員には、後継となる中堅、若手の教員を配置することで、次代を担う教員の育成まで視野に入れ、完成時はもとより、それ以降における教育研究の維持向上まで考慮した教員編成を行っている。

## カ 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

### (1) 教育方法

本学部が目指す人材養成の基本理念や学問体系を、学生が入学当初に十分理解することによって在学中の学習はより一層効果的なものとなる。そのため 1 年次の必修科目として「生命医科学概論Ⅰ」、「生命医科学概論Ⅱ」を配置し、本学部の人材養成の目的に沿って、学生一人ひとりが明確な目的意識と学習意欲を持って勉学に臨めるよう、様々な角度から「医療の現場」や「医科学領域における研究分野」に必要とされる事柄について学習することとしている。

また、授業方法としては、講義、演習と実験・実習を機能的に組み合わせて行うことで、理論と実践を融合し一体的に修得する形をとっている。

各科目の配当年次についても、専門分野の理論と技術の基礎から応用までを体系的に履修できるよう配置している。

1 年次では全ての医療従事者に必要な豊かな人間性、論理的思考力を身につけるための幅広い教養科目を配置している。また専門教育を受けるための基礎を築く知識を習得する科目として、解剖学、生理学、生化学を配置している。2 年次では、微生物学、臨床血液学、臨床免疫学、臨床検査総論、臨床化学、遺伝子検査学、R I 検査学などの各分野の専門科目を配置するとともに、臨床検査の基礎となる実習も並行して行う。3 年次では、専門科目の学内実習科目を中心に臨床検査技師に求められる技術を身につける。3 年次後期には学外の施設において臨床実習を行い基本的な実践技術を修得し、また臨床現場で患者や医療従事者を身近に感じることによって、臨床検査技師としての自覚と見識を養う。4 年次には、卒業研究を配置し、それぞれの課題に取り組む中で、論理的思考力、研究的視点、医科学領域における探求心を養う。

また、1 年次後期から 3 年次後期にかけて行われる細胞検査士教育の講義を通して、自分の適性を見極め、細胞検査士の資格取得を目指す学生に対しては、4 年次に細胞診断学特論を配置し、さらに詳しく細胞診断学を学べるよう科目を配置している。

### (2) 履修指導方法

毎年度始めに学年別にオリエンテーションを開催し、学生に学生便覧、シラバス、時間割、履修モデル（資料 4）等の資料を示し、卒業要件、資格取得に必要な科目、履修方法などについて具体的な説明と質疑応答を行う。また、オリエンテーションでは学部長、学科長の講話の時間を設け、学部学科の教育目標、教育課程の編成や実施方法等について周知し、勉学に取り組む姿勢や態度などについて指導する。

また、全体のオリエンテーションに加えて、随時、事務窓口での職員による個別指導やチューターによる個別の指導・助言を行い、学生の適正や希望する進路に沿った、適切な

履修ができるよう支援する。

#### ・1年次

新入生に対しては前述の学生対象の学年別オリエンテーションとは別に、入学宣誓式後に保護者・新入生合同のオリエンテーションを開催する。このオリエンテーションには全ての専任教員が参加して、学部学科の理念及び目的、教育課程の概要、卒業要件などについて説明し、大学と保護者が共通認識をもち、在学期間中、相互に協力して学生を支援していくための契機とする。また、全体オリエンテーションにおいて、特に1年生に対しては、卒業要件、単位制、必修科目と選択科目など、大学での学習方法について、詳細に説明する。また、後期始めには、チューターが1年次前期の成績表をもとに学習指導や、学生の適正や希望について相談、助言を行う。

#### ・2年次

前期始めに、チューターが1年次の成績表をもとに、個々の学生の1年次の単位修得状況を確認し、2年次の履修に関する相談や指導を行う。また、後期の始めには2年次前期の成績表をもとに、チューターが学習指導や進路に関する相談、助言を行う。

#### ・3年次

前期始めに、チューターが2年次までの成績表をもとに、個々の学生の2年次までの単位修得状況を確認し、3年次の履修に関する相談や指導を行う。また、後期の始めには、3年次前期の成績表をもとに、チューターが学習指導や進路に関する相談、助言を行う。加えて、3年次の終わりには4年次の卒業研究のためのゼミ分けに向けて、学生の適正や希望について確認し、進路の相談、助言を行う。特にゼミ分けにおいては、個々の希望や適正を考慮した上で所属するゼミを決定することになるが、臨床検査技師としての専門性を深める学生と、細胞検査士に特化し細胞診断学の理解を深める学生に大別されるので、相談、助言にあたっては慎重に対応し学生の進路決定をサポートしていく。

#### ・4年次

前期始めに、チューターが3年次までの成績をもとに、個々の学生の単位修得状況を確認し、卒業要件に対する単位取得状況の確認や就職活動など進路に関する相談や指導を行う。また、後期の始めには、4年次前期の成績表をもとに、チューターが卒業に向けた相談や、進路についての相談、助言を行う。「生命医科学卒業研究Ⅰ」を選択した学生には、それぞれの卒業研究を通して4年間の学習を総括できるよう指導し、「生命医科学卒業研究Ⅱ」を選択した学生には、それまでの学習に加えてさらに細胞検査の学習を進め、知識を深めるよう指導する。

### (3) 卒業要件

卒業要件は、大学共通基礎科目 10 単位以上、学科基礎科目 14 単位以上、専門教育科目 100 単位以上、合計 124 単位以上を修得することとする。

生命医科学部の人材養成の目的を達成するため、基礎科目においては「英語 I」、「QOL 概論」、「人間の尊厳」、「分子生物学」、「基礎免疫学」、「生命倫理学」、「情報科学概論」を必修科目としている。専門教育科目においては、臨床検査技師受験に必要な「臨床検査技師等に関する法律施行令第 18 条第 3 号及び同号ニに定める厚生労働大臣の指定する科目」はすべて必修科目とし、卒業要件を満たすことで、臨床検査技師国家試験の受験資格を得ることができる。さらに、生命医科学部の人材養成の目的を達成するため、「生命医科学概論 I」、「生命医科学概論 II」を必修とし、「生命医科学卒業研究 I」あるいは「生命医科学卒業研究 II」を選択必修科目としている。

なお、本学部の教育上の目的が医療従事者の養成である以上、成績評価及び卒業判定は厳格に行い、医療の現場での要望に応えられる優秀な臨床検査技師並びに細胞検査士を責任を持って社会に送り出すよう心掛ける。

## キ 施設、設備等の整備計画

### (a) 校地、運動場の整備計画

本学は、宮崎県延岡市との公私協力方式により設置され、社会福祉学部、保健科学部、薬学部、通信教育部社会福祉学部、大学院（医療薬学研究科、通信制 社会福祉学研究科、通信制 保健科学研究科）を擁する総合大学として現在に至っている。

本学部を設置計画する場所は、上述のとおりすでに大学として機能している緑に囲まれた静かなキャンパス内であり、広大な校地（校舎敷地 201,822 m<sup>2</sup>、運動場用地 21,174 m<sup>2</sup>）の中には、学生が勉学に集中し、各々の夢を実現するために必要な高機能な施設・設備を整えた校舎や研究施設が建ち並んでいる。運動施設についても、グラウンド（400mトラック）、体育館、柔道場、剣道場などを備え、授業はもちろん課外活動にも利用できるよう整備が行われている。また、学内には憩いの広場、出逢いの広場などの開放的なスペースも設置され、多くの学生が交流、休息できるよう整備が行われている。

以上のように、本学部の教育に必要となる校地、運動場についての環境はすでに整っており、新たな整備は行わない計画である。

## (b) 校舎等施設の整備計画

本学部は、教育目標である「生命に対する深い関心と確かな倫理観を培うことを基盤とした豊かな人間性を有し、臨床検査技師及び癌診断のスペシャリストである細胞検査士として、さらには疾患治療基盤の確立を思考する優れた医療人の養成を目的とする。」を達成するために、新たに生命医科学部専用棟（2階建 延床面積 1810.31 m<sup>2</sup>）の建設を計画している。さらには、九州保健福祉大学内に既存の講義室、図書館棟、体育館等の施設も有効活用し、教育の充実を図る。

また、「がん細胞研究所」を学内に整備し、そこで得られた研究成果を本学部教育にも還元できるよう施設整備を進める計画である。

施設の整備計画の詳細については下記のとおりであり、入学定員 60 名、収容定員 240 名の学生に対する教育のために十分な実習室、演習室、設備等を整備する（資料 5）。

### ① 実習室 6 室

#### 実習室 1（183.089 m<sup>2</sup>）

病理検体の脱水、透徹、包埋を行う自動包埋装置や包埋ブロックを薄切するためのマイクロトームなど病理標本作成に必要な機器を整備する。また、ヘマトクリット遠心機等も備え血液学実習にも対応出来る仕様とする。

主な授業科目：病理学実習、臨床血液学実習、微生物学実習、医動物学実習

設置機器：ヘマトクリット遠心機、マイクロトーム、ドラフトチャンバー 等

#### 実習室 2（212.083 m<sup>2</sup>）

血清や尿等の成分濃度の分析に必要な分光光度計や遠心機、アルブミンやグロブリンの分析に必要な電気泳動装置、デンストメータ、遺伝子の分析に必要な PCR 装置などを整備し生化学や臨床化学実習、免疫学実習等を行える仕様とする。

主な授業科目：臨床免疫学実習 I・II、臨床化学実習 I・II、臨床検査総論実習、生化学実習、生理学実習

設置機器：分光光度計、遠心機、デンストメータ、電気泳動装置、ドラフトチャンバー 等

#### 実習室 3（61.727 m<sup>2</sup>）

学生の卒業研究には臨床検査に関わる広範な分野からテーマを選択させ実験を行う。本実習室は物質の分離に使用する遠心機や、濃度測定に欠かせない分光光度計、質量測定や試薬調整に欠かせない電子天秤、pH メータ等の機器を配備し、様々な卒業研究が実施できるよう整備する。

主な授業科目：生命医科学卒業研究Ⅰ

設置機器：多本架冷却遠心機、微量高速遠心機、電子天秤 等

臨床生理実習室（110.903 m<sup>2</sup>）

心電図検査、超音波検査、呼吸機能検査、脳波、筋電図、眼底検査等の様々な生理機能検査の実習を行えるように機器を整備する。

主な授業科目：臨床生理学実習、生理学実習

設置機器：エルゴメーター、電子スパイロメーター、超音波診断装置、筋電図・誘発電位検査装置、心電計、加速度脈波計 等

細胞診講義実習室（116.420 m<sup>2</sup>）

細胞検査士教育には長時間の顕微鏡観察が必要である。細胞診講義実習室には細胞検査士を志す多数の学生が同時に観察可能な顕微鏡を準備する。また、これとは別に、長時間の観察による疲労を軽減可能な顕微鏡観察のプロフェッショナルが使用するにふさわしい顕微鏡を学生に1人1台準備する。

主な授業科目：細胞診断学特論Ⅰ・Ⅱ、生命医科学卒業研究Ⅱ

設置機器：ディスカッション顕微鏡、学生用生物顕微鏡 等

鏡検室（221.209 m<sup>2</sup>）

病理学実習、組織学実習、血液学実習、微生物学実習など顕微鏡観察が必要な実習を行い、5名が同時に観察可能な顕微鏡にハイビジョンカメラと複数台の大型液晶ディスプレイを設置し、多人数の学生に顕微鏡画像を同時に観察させる。また、これとは別に、学生には1人1台の顕微鏡を準備し、標本の観察、スケッチ等を十分に行うことが出来るよう整備する。

主な授業科目：解剖学実習、病理学実習、臨床血液学実習、臨床検査総論実習、医動物学実習、臨床細胞学演習Ⅰ・Ⅱ

設置機器：ティーチング顕微鏡、学生用顕微鏡 等

## ② 演習室2室

演習室1（144.471 m<sup>2</sup>）

臨床検査技師国家試験の学習のために整備する。

主な授業科目：臨床検査学演習Ⅰ・Ⅱ

設置機器：天吊プロジェクター、机、イス 等

### 演習室 2 (56.839 m<sup>2</sup>)

臨床生理実習室の横に併設し、臨床生理実習室で得られた臨床検査データの解析・検討を行えるよう整備する。

主な授業科目：臨床生理学実習

設置機器：机、イス 等

### ③ 培養室 1 室

#### 培養室 (34.560 m<sup>2</sup>)

微生物培養で使用する血液寒天や TSI 培地等様々な培地を無菌的に作成するために必要な安全キャビネット、また微生物の植菌、分離、さらには培養用のインキュベータを備え、乾熱滅菌装置やオートクレーブによる滅菌操作等の微生物検査に必要な機器を整備する。

設置機器：安全キャビネット、オートクレーブ、卓上遠心機、恒温器 等

### ④ 準備室 2 室

#### 準備室 1 (16.113 m<sup>2</sup> )

全ての実習で共通に使用する実験用の純水を供給する純水製造装置や、低温により生体成分の変化を抑制しつつ分析するために欠かせない氷を供給する製氷機を整備する。

設置機器：純水製造装置、製氷機、フリーザー 等

#### 準備室 2 (34.884 m<sup>2</sup>)

教員が実習の打ち合わせや準備を行う為にテーブル、資料・教材作製のコンピュータやコピー機等を備えている。また、実習に使用するプレパラート標本の選択が行える様、標本用の整理棚や顕微鏡を整備する。

設置機器：パソコン、コピー機、教員用机、資料・教材 等

### ⑥ 自習室 1 室

#### 自習室 (69.387 m<sup>2</sup>)

臨床検査技師国家試験や細胞検査士試験に備え自由に勉強できるよう自習室を整備する。また学生と教員が自由な雰囲気のもとで、闊達に議論し、研究発表の打ち合わせ、予行演習等も行えるよう行う整備する。

さらに、建物内に高速ネットワークを敷設し、全ての部屋に情報コンセント及び無線 LAN のアクセスポイントを設置し、学生が持参するノートパソコンなどの情報機器につい



でも常時ネットワークへの接続を可能にする。また、実習室 1、実習室 2、鏡検室、細胞診講義実習室、演習室 1 には、ビデオプロジェクターや大型ディスプレイなどマルチメディア対応の AV システムを設置し、多彩な授業に対応するよう整備する。

#### (c) 図書等の資料及び図書館の整備計画

本学部設置にあたり、十分な教育・研究が行えるよう専門領域の資料を基礎から高度な研究目的に沿うものまで、カリキュラムに配慮しバランスよく揃える計画である。具体的には、図書 1,500 冊 (内国書 1,300 冊 外国書 200 冊)、学術雑誌 15 種 (内国誌 10 誌 外国誌 5 誌 (全て電子ジャーナル))、視聴覚資料 11 点を整備する計画である。

すでに既設の学部が使用している図書館棟 (2 階建て : 1,897.77 m<sup>2</sup>) があり、新設学部でもこの図書館を利用する計画である。図書館棟は閲覧席 268 席と、収容可能冊数約 11 万の開架書架が配置されている。

また、情報検索席 6 席を設け、専用スペースとして教育研究用のコンテンツを提供している。それとは別に、館内全域に無線 LAN を整備し、パソコンを持ち込んでインターネット等を利用した学習も可能である。

図書館は、既に整備されている蔵書検索システム (OPAC) を利用して、全学及び本学園の他の設置校 (吉備国際大学、順正高等看護福祉専門学校) の 20 万を超える図書資料の情報を共有化し、全ての蔵書を情報検索席や学内無線 LAN 等を使用し、どこからでも横断的に検索することが可能となっている。本学部についても同様に、学生の申し込みから遅くとも一週間以内には吉備国際大学の高梁キャンパス、南あわじ志知キャンパス、岡山キャンパス、順正高等看護福祉専門学校から図書の貸し出しを受けることができる環境が整備されている。また、国立情報学研究所 (NII) に接続し、目録の共有化 (CAT) と相互貸借 (ILL) を行っており、全国の大学・研究機関と相互協力と情報発信を行っている。

資料は学術雑誌を中心として可能な限り電子化を進め、その速報性で学習をサポートするとともに、図書館施設外・時間外・同時利用を可能とする利用環境を整える計画である。

#### ク 入学者選抜の概要

生命医科学部では「生命に対する深い関心と確かな倫理観を培うことを基盤とした豊かな人間性を有し、臨床検査技師及び癌診断のスペシャリストである細胞検査士として、さらには疾患治療基盤の確立を思考する優れた医療人の養成を目的とする。」を人材養成の目的として掲げ、この目的を達成するための教育課程を編成している。

この人材養成の目的と教育課程の編成を踏まえて、本学部では以下の入学者受入方針をとる。

## 入学者受入方針

本学部・学科は細胞検査士・臨床検査技師として、医学研究及び医療現場で貢献する人材の養成を目的としている。したがって細胞検査士・臨床検査技師の資格取得には専門的な知識を修得することが必須となる。このことを理解し明確な目的意識と学習意欲をもつ学生に門戸を広く開放する。

将来、細胞検査士・臨床検査技師の資格を取得し、病院や検査センターなど医療機関で活躍したい学生、あるいは、大学院進学など高度医療を支える研究者として活躍したい学生を受け入れるため、入学者選抜は、ＡＯ入試、指定校入試・関連校入試、推薦入試、一般入試（前期・中期・後期・センター試験利用入試）により行う。

ＡＯ入試（専願制）については、学力試験では計れない資質、能力、個性を有する学生を受け入れ、積極的な学生生活を期待し、社会に有為な人材を養成することを趣旨としている。本学のＡＯ入試は、面談に先立ち学生がエントリーカードと課題レポートを提出するエントリーから始まる。エントリーが受け付けられた後、オープンキャンパスや地方会場で面談が行われ、大学側は学部学科の教育内容及び教育理念を説明し、学生からの疑問や質問に答えることで相互理解を深める。また、本学教員が個別に面談を行い、学生の進学意欲や、卒業後の将来像などを確認する。こうしてエントリーで提出した課題レポートと面談の結果をもとに大学内で審議し学生の適正についての評価を行う。その結果、出願資格を認められた者に大学から出願資格確認通知を送る。受験可の通知を受けた学生で入学を希望する者は、出願書類を提出し、総合評価の結果による合否の判定が行われる。

ただし、開設年度の学生募集については、ＡＯ入試をはじめ、すべての入学者選抜において、学部学科の設置が認められた後、入学希望者に誤解や不利益を与えたりすることのないよう十分留意して適切に実施することとする。

次に、推薦入試においては、学習意欲が明確で入学意欲の高い人材を選抜するもので、出身校高等学校長の推薦が得られる者が受験可能となる。推薦入試は推薦入試 A 日程と推薦入試 B 日程を実施する予定であり、本学部の選考方法は、いずれの入試も小論文（600字）と出身高等学校（若しくは中等教育学校）の調査書による選考を計画している。

指定校入試及び関連校入試は、本学が指定する対象校の高等学校長（若しくは中等教育学校長）が、学業・人物ともに優秀であると認め推薦する者を対象に、現役、専願を条件に、調査書、推薦書類による書類審査と集団面接による選考を行う予定である。なお関連校入試は、本学のグループ姉妹校及び高大連携協定校など、関連の深い指定高等学校の出身者を対象とした入試である。

さらに、一般入試では、前期（3科目型、2科目型、1科目型）、中期、後期により入学者

選抜を行う。前期 3 科目型では「国語・外国語・数学・公民・理科」から 3 教科 3 科目を選択、前期 2 科目型では「国語・外国語・数学・公民・理科」から 2 教科 2 科目を選択、前期 1 科目型では「国語・外国語・数学・理科」から 1 教科 1 科目を選択する。中期入試は「国語・外国語・数学・理科」から 2 教科 2 科目を選択し、後期入試は「国語・外国語・数学・理科」から 1 教科 1 科目を選択する。一般入試の実施においても、このように多様な選考方法や日程を設けることで、優秀な入学生の確保を行いたいと考えている。

その他には、学士・社会人入試を行い、社会人や帰国生徒など、一般の高校生を対象とするだけでなく、優秀な入学生を確保するために広く学生募集及び入学者選抜を実施したいと考えている。

最後に、開設年度の学生募集においては実施できないが、次年度以降は「センター試験利用入試」を実施する予定である。前期・中期・後期の三期を設け、それぞれ入試区分によって定める所定の科目の大学入試センター試験での得点をもって選考を行う予定である。

#### ケ 取得可能な資格等

本学部で取得を目指す資格は、下記の一覧表のとおりである。

臨床検査技師	国家資格	受験資格取得	卒業要件単位に含まれる科目の単位修得により受験資格を得られるが、資格取得は卒業要件ではない。
細胞検査士	民間資格	受験資格取得	卒業要件単位に含まれる科目の単位修得により受験資格を得られるが、資格取得は卒業要件ではない。

なお、臨床検査技師、細胞検査士の資格取得に必要な科目履修については、学生便覧等に記載するとともに、履修モデルを学生に示して指導を行う（資料 4）。

#### コ. 実習の具体的計画

##### (a) 実習先の確保の状況

「臨床実習（3年次・5単位）」における現在の実習先の確保については、実習施設一覧のとおり、宮崎県内の 8 施設から実習受入承諾を得ている（資料 6）。今後は、学生の出身地域の総合病院など、学生の利便性を考慮した上で実習受入施設を増加していく予定である。なお、実習先が遠隔地等にあり宿泊を伴う場合の学生支援としては、大学が賃貸アパ

ートを契約して宿泊先を確保するなどの支援を行い、移動手段についても公共交通機関の使用を指導するなど安全面について十分配慮する計画である。

#### (b) 実習先との契約内容

臨床実習を円滑実施するため、大学と実習施設は、個人情報保護や事故等の取扱いについて、実習開始前に協議し、合意の上で取り決めを行う。この取り決めに基づき、学生は大学及び実習施設に対し、誓約書を提出する。

個人情報保護に関する取り決めについては、個人情報の漏えいなどがないように、実習担当教員は学生に対し、個人情報の取扱いについて説明文書をもって周知徹底するとともに、実習終了後も実習中に知り得た個人情報について、漏えいなどがないように指導する。

事故防止に関する取り決めについては、実習担当教員及び実習施設における指導者が、学生に対し、常に状況を的確に判断するための努力をおし、知識、技術の向上に努めるとともに、慣れによるミスを防ぐため、常に安全で正確に行うことを心がけるよう指導することで事故防止に努める。

事故発生に対応する取り決めについては、医療事故及び患者等の他者に傷害を負わせた場合、又は施設、患者、家族の物品を壊した場合、直ちに実習担当教員または実習施設における指導者に報告し、その指示に従う。併せて、事故報告書を実習担当教員に提出し、必要であれば、損害賠償保険の請求手続きを取る。

#### (c) 実習水準の確保の方策

実習内容及びその水準は、実習施設間で大きな差が生じないように、実習の基準となる内容を示した「臨床実習の手引き」を作成し、学生及び実習施設における指導者に配付する（資料7）。学生と実習施設における指導者は、「臨床実習の手引き」を参考に実習計画を作成し実習を行う。実習中、学生には臨床実習記録の記載を義務づけ、修得した内容、感想、疑問点、反省点、課題などを記載させ、実習施設における指導者がチェックする。実習終了後には、各学生が実習報告書を作成の後、実習報告会を開催し、臨床実習における様々な課題について学生全員に共有させることで、実習水準の確保を図る。

#### (d) 実習先との連携体制

実習担当教員と実習施設における指導者は、毎年、実習開始前に臨床実習の実習指導者会議を行い、実習目的、達成目標、実習計画、実習の心構え、諸注意、実習指導方法、実習評価基準について協議する。

実習中の状況は、実習担当教員による巡回指導や、定期的な連絡により状況把握を行う。

実習終了後は、実習担当教員が実習施設における指導者と連絡を取り合い、反省点や達成目標について確認することで、実習先との連携体制をとる。

(e) 実習前の準備状況（感染予防対策・保険等の加入状況）

感染予防対策は、感染に関する講義を復習させ、感染に対する意識を高める。また、手洗いには消毒液やアルコール消毒を使用し、実習中に使用した白衣の洗濯や、実習器具の洗浄、消毒等、常に清潔を維持し衛生面に気をつけるよう指導する。感染が疑われる患者と接する場合、もしくは、自分の感染が疑われる場合は、実習施設における指導者の指示に従うよう指導する。

保険等の加入状況については、他人に怪我を負わせた場合や、実習施設の物品が破損した場合にも適用される学研災付帯賠償責任保険と、感染傷害にも適用される学生教育研究災害傷害保険へ加入するよう案内し、実習開始前には全員加入するよう指導する。

(f) 事前・事後における指導計画

実習担当教員と学生は、実習開始前に臨床実習の打合せを行い、実習目的、達成目標、実習計画、実習の心構え、諸注意について確認する。

実習終了後は、実習担当教員が実習施設における指導者と連絡を取り合い、反省点や達成目標について確認し、学生に指導する。

また、実習終了後には、各学生が実習報告書を作成の後、総括として実習報告会を開催する。

(g) 教員及び助手の配置並びに巡回指導計画

実習担当教員は、各実習施設の巡回指導を行うとともに、実習施設における指導者と定期的に連絡をとり、実習指導が滞りなく実施できるよう、学生のバックアップを行う。

臨床実習は原則として3年次の2月から3月の期間に5週間の実習を行う予定である。2月から3月の期間は、通常の講義は行っていない時期であるため、巡回指導を実施する教員の負担等の観点から無理のない計画であると考えている。また、遠隔地の実習先における巡回指導については、実習先の近くの宿泊施設を利用するなど、巡回指導を計画的に滞りなく行っていく予定である。

#### (h) 実習施設における指導者の配置計画

本学が臨床実習を依頼する実習施設については、実習指導の経験豊富な指導者が多く在籍し、実習指導の現場に配置されている実績がある。本学の臨床実習においても、この経験豊富な実習施設における指導者が配置される予定である。

#### (i) 成績評価体制及び単位認定方法

実習中の評価は、各実習施設における指導者が評価し、実習終了後に「臨床実習評価用紙」によって実習担当教員へ報告する。実習担当教員は、実習中の評価、巡回指導における状況、学生が作成した実習報告書、実習報告会の結果をもとに総合的に実習の成績評価を行う。また、この成績評価をもとに単位認定を行う。

### ツ 管理運営

本学の教育的な管理運営の実施体制としては、学部教授会において審議・検討を行い決定する。具体的には教育課程の変更、当該学部学科等に係る諸規程の改廃、当該学部への入学、学位授与及び卒業等の事項など、直接的事項に関する意志決定が行われる。その他、専任教員採用等に係る格付け審査に関しては、当該関係領域の専任教員等による専門分科会により格付けを検討審査し、学長・副学長等で組織する全学審査会上申し、総長・理事長との協議により格付けが決定され、教員の採用及び昇格が行われる。

また、本学の教学に関する最終決定機関として「大学協議会」を設けており、大学協議会では、教学に関する重要な事項のほか、大学全体に係る総括的事項や運営について、適切、円滑かつ迅速に進めるための審議、決定を行う。大学協議会の構成メンバーは、総長を議長として、学長、副学長、研究科長、学部長、事務局長などの主要な構成員により組織するものであり、総長は、その必要性に応じて学内はもとより、学外からも構成員として専門職種の人材を招集し、多角的な観点からの意見をもとに意志決定を行うこととしている。

### テ 自己点検・評価

本学では2000(平成12)年1月に九州保健福祉大学自己点検・自己評価委員会(以下「点検・評価委員会」)を設置し、建学の理念及び目的の達成に向けた具体的活動状況の適切性を毎年検証するシステムを構築している。

点検・評価委員会は「九州保健福祉大学自己点検・評価委員会規程」に基づいて運用され、基本事項検討部会、カリキュラム部会、教育指導部会、研究活動部会、学生生活部会、図書館部会、キャリアサポート部会、社会貢献部会、通信教育部会、学生の受け入れ部会、大学院部会、留学生部会の12部会で構成される。これらの部会は点検・評価委員会規程第4条に設定された14項目に相応して設定され、適宜その必要性に応じて部会を開催し、個別の点検・評価を実施している。

その点検・評価結果は年度末に開催する同委員会総会において各部会長から報告され、九州保健福祉大学教育開発・研究推進中核センターを通して学部・学科にフィードバックされ、翌年度の教育研究目的及び実践活動の検討資料となっている。

九州保健福祉大学教育開発・研究推進中核センターは、大学における教育の開発及び研究の推進を行うことにより、全学的な教育・研究活動の活性化を図り、併せて社会貢献に寄与することを目的とした組織であり、教育開発部門、研究推進部門、社会貢献部門からなり、センター長は学長、教育開発部門・研究推進部門・社会貢献部門の部門長は副学長で構成されている。

本学の各部局の教育・研究・社会活動に関する企画・立案・調整、さらに各業務の点検・評価は、教育開発・研究推進中核センターにより合議される。同センターは、十分な根拠・論拠に基づいて自己点検・評価を行い、優れている事項、改善すべき事項を具体的に指摘し、Plan、Do、Check、Actionのサイクルを回転させることで内部質保証システムとして機能している。新設する生命医科学部についても既設の各部局と同様にこの仕組みにより点検・評価が行われることとなる。

なお、大学の質の保証、向上を図るための外的質保証システム、いわゆる認証評価については大学基準協会から2007（平成19）年度に認証を受け、続いて2011（平成23）年度に自己点検・評価報告書を作成、同協会に提出し2012（平成24）年4月～2019（平成31）年3月末日までの適合の認定を受けている。

## ト 情報の公表

本学では、web上にホームページを開設しており、建学の理念、各学部・学科紹介などを掲載しているが、トップページに「情報公開」のバナーを設け、そこからのアクセスすることにより、以下のページから簡単に本学の情報を閲覧することができるように配慮するなど、公的な教育機関としての情報の公表に留まらず、大学の質保証の観点から積極的な教育情報の公表に努めている。

【九州保健福祉大学ホームページアドレス <http://www.phoenix.ac.jp/>】

## 1. 教育研究上の基礎的な情報

- (1) 学部、学科、研究科、専攻ごとの名称及び教育研究上の目的
- (2) 専任教員数
- (3) 校地・校舎等の施設その他の学生の教育研究環境  
キャンパスマップ、教育研究施設、交通アクセス
- (4) 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用

項目①：大学の教育研究上の目的に関すること

項目②：教育研究上の基本組織に関すること

項目③：教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

項目⑦：校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

項目⑧：授業料、入学料、その他の大学が徴収する費用に関すること

【九州保健福祉大学ホーム>情報公開>学部等>1. 教育研究上の基礎的な情報】

## 2. 修学上の情報等

- (1) 教員組織、各教員が有する学位及び業績
- (2) 入学者に関する受入方針、入学者数、収容定員、在学者数、卒業（修了）者数、  
進学者数、就職者数
- (3) 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業計画  
シラバス又は年間授業計画の概要
- (4) 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準  
必修・選択・自由科目別の必要単位修得数及び取得可能学位
- (5) 学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援
- (6) 教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報  
履修モデルの設定、主要科目の特長、科目ごとの目標など

項目③：教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

項目④：入学者に関する受入れ方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、  
卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の  
状況に関すること

項目⑤：授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

項目⑥：学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

項目⑨：大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

項目⑩：その他（教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報

【九州保健福祉大学ホーム>情報公開>学部等>2. 修学上の情報等】



### 3. 財務情報

(1) 前年度の財産目録、貸借対照表、収支計算書、事業報告書、監事の監査報告書

【九州保健福祉大学ホーム>情報公開>学部等>3. 財務情報】

### 4. 上記以外の情報の公表

#### (1) 教育研究上の情報

教員一人当たり学生数、年齢別教員数、段階別教員数、専任教員と非常勤教員の比率、就職先の情報、退学・除籍者数、中退率、社会人学生数、留学生数及び海外派遣学生数、協定相手校、社会貢献活動、実験動物飼養保管数及び動物実験計画件数、平成 24 年度薬学共用試験結果

#### (2) 財務情報

財務状況を全般的に説明する資料、各科目の平易な説明の資料、財務比率等を活用して財務分析をしている資料、グラフや図表を活用した資料

【九州保健福祉大学ホーム>情報公開>学部等>4. 上記以外の情報の公表】

#### (3) その他

項目⑩：その他（設置認可申請書、設置計画履行状況報告書、自己点検・評価報告書、認証評価の結果）

【九州保健福祉大学ホーム>情報公開>各該当項目】

また、教員プロフィールについては、下記の項目について公開し、各授業科目については web 上にシラバスを掲載するなど、積極的に教育内容の公開に努めている。

氏名、電子メールアドレス	職名	役職名
最終学歴	学位	資格
講義科目	専門分野	現在の研究テーマ
研究業績	所属学会	学内委員
専門ゼミとそのバックグラウンド	メッセージ	

これらの情報の更新は、web 上から各教員自身が ID とパスワードを入力することで、専用の画面から書き換え可能なシステムを導入しており、情報は随時更新されている。

以上のほか、国立情報学研究所の研究者データベースにも研究情報を提供し、教育研究活動の公開に努めている。今後も、産学官連携、地域連携を促進するべく、情報公開項目を再検討し、具体的な教育研究活動に関する情報提供を推進する。

さらに、研究紀要は毎年発行し、平成 23 年度からは学部毎の刊行を取りやめ、人文系と

自然・医療系の 2 分冊として、学部を超えた共同研究推進の糸口にしている。各研究所からはそれぞれの研究報告書を作成し発行している。その他には、毎年作成する大学案内、関連学園である加計学園との共同機関誌である「KETHY」などを通して学内情報等を公開し提供している。

なお、平成 26 年度中の稼働に向けて準備が進められている大学ポートレートにも自主的、積極的に取り組み、大学の教育情報を公表していく。

#### ナ 授業内容方法の改善を図るための組織的な取組

本学においては、平成 13 年度から広島大学や神戸大学等の教学改革の先進事例について各々の大学で改革を推進している教員を招いて、講演会を開催するなどの学内での啓蒙活動を行ってきた。また、平成 15 年度から総長の下に学長を長とする「教育開発センター」を設置し、特色ある大学教育を進めるとともに、具体的な教育内容・教育方法の改善に取り組んできた。平成 17 年度からは、研究推進活動や社会貢献活動に関する委員会や部会を整理統合し、新たに教育開発・研究推進中核センターを設置し、さらに組織的に教員の資質の維持向上に努めている。

教育開発・研究推進中核センターでは、建学の理念を具現化するために、従来の「教育開発部門」に加えて「研究推進部門」「社会貢献部門」を柱として、各々担当の副学長を長とし、総合的な教学改革に取り組んでいる。具体的には、センター長（学長）を中心に、部門長、副部門長、大学事務局長を構成メンバーとして毎月定例のセンター会議を開き、活発な討議を行っている。さらに、それぞれの部門においても、各部門長を中心として、部会、委員会が各学部の担当委員を構成メンバーとして毎月 1 回程度の会議を開催している。

「教育開発部門」では、平成 15 年度以降、特色ある教育の取り組みについて検討を進めており、「特色 GP」、「現代 GP」などの教育研究補助事業に対しても、毎年申請を行っている。これまで採択には至っていないが、IT を基盤とした教授法の開発・実践、国際協力実習を核とした国際教育、海外インターンシップの機会を活用した仕事で英語が使える日本人の育成など、本学の特色を反映した取り組みを推進している。「研究推進部門」では、平成 16 年度から学校法人が中心となり吉備国際大学・九州保健福祉大学の両校で毎年「学術コンファレンス」を開催し、教員の研究に対するモチベーションの向上を図って、学内の研究活動が科学研究費等の競争的研究資金獲得へ繋がるよう努めている。また、平成 17 年度からは「学術シンポジウム」を開催し、活発な研究活動の推進に繋がるテーマを掲げ意見交換等を行い、研究意欲の向上にむけた取り組みを展開している。「社会貢献部門」では、地域自治体との産学官連携推進協定に基づき、市の活性化活動、各種ボランティア活動（災害支援活動含む）、各種委託研究・事業などを組織的に進めており、あわせて本学の教育目

標でもある国際協力活動を実践している。

一方、FD委員会を中心に、年1回程度のFD講習会を実施しながら、教員の教育法を評価するシステムを検討し、また教員個人の持つ教育情報の公開を行っていくこととしている。具体的には、Web上で公開する授業計画（シラバス）の充実、講義ノートや教材の電子化などを積極的に推進することで、担当科目を履修している学生の授業評価だけでなく、教育法の向上に向けた学内でのシンポジウムや研修会での評価を行い、良い教育事例を行った教員に対する評価制度の検討まで含めて、授業内容方法の改善に向けた組織的な取り組みが行われている。

また、学生による授業アンケートを学期末に全科目で実施しており、解析されたアンケート結果は各教員に戻され、より優れた講義づくりの参考となるよう配慮している。新設の生命医科学部においても、同様の取り組みにより継続的に授業内容方法の改善を行っていく。

## ニ 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

本学では、キャリア教育と就職支援を全学一体となって取り組むため、「キャリアサポート委員会」を組織し、学生自らが職業観・勤労意識を培い、自らの個性・能力を把握しつつ、将来の進路を選択できるように支援している。

教育課程内の取り組みとしては、1年次の大学共通基礎科目に「キャリア教育」を開講し、大学教育の中で自己の個性を理解し主体的に進路を選択し、将来、社会に貢献できる人材として成長するための基礎的な能力を養成する。特に、(1) 医療に従事する者としての使命感や国家資格を有する事の意味、(2) 生きる力を身につけること、(3) 社会の激しい変化や直面するであろう様々な課題に対応すること、(4) 社会人・職業人としての自立などをテーマとして考察する。さらに、3年次の臨床実習では、臨床検査の実践技術の修得のみならず、病気と闘う患者と医療従事者を身近に感じることによって、臨床検査技師としての使命、役割や責任の重さを肌で体験し、本格的就労に向けた準備の機会として、学生の就職意識の啓発と向上に繋がるものと考えている。

教育課程外の取り組みについては、各学部学科の専任教員とキャリアサポートセンターが連携して学生の相談・助言にあたっている。学生が自ら能動的に知識・資格・技能の修得に励み、個々の適正と能力に応じた希望の就職を叶えることができるよう、就職活動やキャリア形成に関する相談にのるとともに、指導を行って導いていく。

適切な体制の整備については、学生の就職支援を効率的に行うために、キャリアサポートセンターを中心に、病院をはじめとする医療機関や関連の事業所、産業界等とも密接な連携を図り、就職面談会や企業懇談会を行い、様々な業種や職種の情報提供及び社会人基礎力養成のための援助を受けられるような体制を構築している。新設の生命医科学部にお

いても、既設学部で培ったこのような就職支援体制を活用し、他学部と同様にキャリアサポートセンターと専任教員とが密接に連携・協力し、学生の就職支援を実施する計画である。